

住宅街の真ん中を、セメントやタイルを積んだトラックが出入りする。JR新潟駅南のマンションが立ち並ぶ一画に、本社を構える「いりやまと」(新潟市中央区)。創業136年の老舗は、資材の販売や建築・

にいがたの老舗 100年の系譜

土木工事を通して街の変容を見詰めてきた。

創業者の戸川豊吉氏は旧長岡藩士だった。戊辰戦争後、「武士の時代は終わった」と、水戸の鍛冶職人のもとへ出向いた。そこで習得したのが、土にわら

塗りを極める いりやまと (新潟市中央区) ①

左官業で高めめた声望

サンデー経済

などを混ぜた壁材料を鏝で仕上げる左官の技術だ。塗り、建物の壁や床をた。



左官業者らに販売する壁材料などを扱った資材部
11969年ころ、新潟市中央区

資材も販売 2本柱整う

創業 1874年
本社 新潟市中央区南笹口1
資本金 2000万円
社員数 44人
事業内容 建築・土木資材および機械の卸販売。建築・土木および一般住宅の工事。精密機械のリースなど。

戦後しばらくして、戸川家は家業の近代化を図る。こたわった。その姿勢は現在まで貫かれている」と強調する。
1951年、株式会社戸川左官工業を設立。2000年、戦後復興の時期が終わり平方以上に満たない西堀通を告げた50年代後半、同社の職場兼住宅には、戸川家は、建築・土木分野の技術と職人ら約30人が暮らして、革新と経済成長の流れに乗っていく。

仕事を求めて新潟市に流石に当たる戸川正昭社長に就いた豊吉氏は1874(65)は「腕のいい職人はほかに多かったが、特に技術の高さが有名だった」と資材の販売だ。
資材部を切り盛りしたのは登代氏だった。仕入れては、資材の量の乏しさや問屋を介してつり上がる料金の高さを回避するため、製造元や産地を巡り直接契約を実現。古い漁網を探して買い付け、土壁に入れる「わら」を自社で加工する「わら」を自ら加工する。戦中「わら」を自社で加工するは職人を兵役に取られ、少数で軍需工場の床仕上げなど、利益に対して合理的な手間は惜しむことはなかった。
戸川社長は「両親とも自

「立って半畳、寝て一畳